

○ 病虫害防除法（畑作物共通）

1 畑作物共通

（１）畑作物における薬剤散布量の目安

作物名	生育ステージ	10 a 当たり散布液量
サツマイモ		100～300L
サトウキビ	生育初期 生育中期 生育後期	100 L 150 L 180 L 以上
大豆		100～150 L

※ 但し、散布薬量の定められた農薬は使用基準に準じる。

（２）総合防除の基本的考え方

本県の畑作物においてはハスモンヨトウなどのチョウ目害虫、コガネムシ類や有害センチュウ類などの土壌害虫の被害が問題になっている。このことから、病虫害防除は安定生産を図るために欠くことのできない重要な作業である。これまで防除の手段として、短期的に効果が高く省力的であることから、化学農薬が優先されてきた。しかし一方で、薬剤感受性の低下、天敵の減少、周辺環境への悪影響等が懸念されている。このような中、鹿児島県では近年の多様化した病虫害の発生状況に対応するとともに、化学農薬に頼りすぎない、環境に配慮した適切な病虫害防除対策を推進するため、植物防疫法（昭和 25 年法律第 151 号）に基づき、「鹿児島県総合防除計画」を令和 6 年 3 月に策定した。今後、発生予察に基づいた「総合防除計画」の推進とともに、安心・安全な農作物生産のために農薬の適正使用の徹底を図り、総合防除の推進に基づいた防除を推進する。

（３）畑作物における化学農薬低減技術

ア 抵抗性品種の利用

病虫害に強い品種を栽培する。サツマイモでは、サツマイモネコブセンチュウに対する抵抗性を持つ品種を、サトウキビでは黒穂病やさび病などに対する抵抗性を持つ品種を利用する。

イ 耕種的防除

健全な種子を用い種子伝染性の病害を予防する。害虫の生息場所であるほ場周辺の除草を行うことでは場への侵入を防ぐことができる。

ウ 生物農薬の利用

サツマイモでは、センチュウ類に対するパストリア水和剤が利用できる。

エ 輪作・対抗植物利用技術

輪作体系にクロタラリア、ギニアグラス、エンバク、落花生などの対抗植物を取り入れることでセンチュウの増殖を抑制できる。